# ホーリー・マザー　崇高なる理想の手本

### 2017年1月15日

### 逗子例会

### スワーミー・メーダサーナンダによる講話

### 於・逗子協会

今日は、プージャやアーラティ、プシュパンジャリを行ってホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィーの誕生日をお祝いしています。さて、偉大な悟りの魂を偲んでこのような祝賀会を行うのはなぜでしょうか。もちろん、こうした優れた人物を心に留めておきたいからですが、その生涯からインスピレーションを得て、私たちが少しでも成長し、前進し、自分をより完成させるためでもあるのです。

今、『ホーリー・マザーの生涯』を輪読しました。また、皆さんは、私がマザーについて行う講話を何年も聞いていますね。そこで聞きたいのですが、マザーの性格で一番印象に残っているのはどのようなところでしょうか。マザーのお写真を見て、最初にどのような印象を受けますか。

（信者1）私が一番好きなのは、マザーの慈悲心です。20年前に最初に協会に来た時、「私の息子が泥にまみれていれば、泥を払って膝に抱き上げてやるのは私です」という言葉を聞きました。それまで、罪人は悪い人間だと思っていましたが、どのような過去を背負っていてもマザーの慈悲深い愛を受けることが出来るのだと知りました。お母さんの愛で人は変わる。このような愛というものにとても惹かれました。

（マハーラージ）そうです、マザーは慈悲と愛情を惜しむことはしません。罪人であるかどうかなど考えないのです。これは印象深いですね。

（信者2）私は結婚しているので、タクール（シュリー・ラーマクリシュナ）とマー（ホーリー・マザー）の結婚が普通の人の結婚とは違うと聞いて謙虚な気持ちになりました。

（マハーラージ）その結婚についてどのような印象を受けましたか。

（信者2）聖者同士の結婚ですから、特別な意味のあるものだと思います。また、マザーは母なる神の化身であったのに、献身的な妻のようにタクールのお世話をしました。さらに、タクールは自分の偉大さを隠すということはしませんでしたが、マザーは普通の人には分からないように、隠していました。こういうところに感動しました。

（信者3）マザーは私のお母さんですから、何も心配していません。

（マハーラージ）自分を産んだお母さんとマザーはどこが違いますか。

（信者3）マザーは、魂のお母さんです。私を産んでくれたお母さんとの関係は肉体上のものです。魂のお母さんであるマザーとの関係は、絶対に切れないという安心感があります。膝に乗ったら頭を撫でてくれそうな優しさを感じます。

（信者4）マザーはラーマクリシュナのシャクティ（聖なる母の創造エネルギー）として現れた方だと思っているので、基本的に、人間、普通の人とは見ていません。ベルル・マトのホーリー・マザー・テンプルで瞑想していた時、引き込まれるような大きな愛を感じました。女性が本質的に持っている愛、その究極のものを表している方だと思います。

（マハーラージ）例えば、マザーの愛の他に、普通のお母さんの愛、お父さんの愛、友達の愛、夫の愛、妻の愛などがあります。マザーの愛が違うというのはどういうところでしょうか。

（信者4）全然違います。マザーの愛は普遍的で、ある一定の人にだけではなく誰にでも公平に与えられる愛です。

（信者5）マザーが私たちにいろいろ教えてくださっている全部が好きですが、自分への戒めと思っている言葉は、「平和を望むなら、他人の欠点を見つけないで自分の欠点を見つめなさい」です。これは何度自分に言い聞かせても実践が難しいですが、自分を戒めるために何度でも繰り返そうと思っています。

（信者6）マザーが誰に対しても「わが子よ」と呼びかけてくださるので、つつまれるような安心感があります。

（マハーラージ）ホーリー・マザーの写真を見た時にたいていの人が受ける印象は、穏やかさ、静けさです。青空のようです。青空を見上げると、穏やかさ、静けさを感じますね。『バガヴァット・ギーター』のなかに興味深い一節があります。（第4章18節）

Karmani akarma yah pasyed akarmani ca karma yah

Sa buddhiman manusyesu sa yuktah krtsna-karma-krt

（日本語訳）活動の中に無活動を見、無活動の中に活動を見る人は賢者であり、そうした人は、たとえどんな種類の仕事をしていようと、相対世界を超越した覚者（ヨーギ）である。

## 休むことなく働き、奉仕する

この一節を最もよく体現した方がマザーです。毎日、朝から晩まで、生まれてから死ぬまで、マザーにはやるべき仕事がたくさんありました。「休む」という言葉の意味を知らなかった程忙しかったのですが、マザーは常に穏やかで静かでした。これは、マザーの性格の素晴らしい点ではないでしょうか。もちろん、慈悲や謙虚さ、悟り、無限の愛などの体現者でもありましたが、マザーの写真を見た時の第一印象は、圧倒的な静けさと穏やかさでしょう。タクール（ラーマクリシュナ）は、いつも神について話し、指示を与えていました。しかし、ホーリー・マザーは、体、心、霊性のすべての面で休むことなく働き、信者らに対しても休むことなく話をしました。一瞬たりとも休みませんでしたが、マザーには大いなる静けさと穏やかさがあります。

カルマ・ヨーガとは何でしょうか。私たちは働かねばならない、そして働きを礼拝とする、これがカルマ・ヨーガですね。そうすることで、働きからストレスを受けることなく平安と静けさを享受することができます。ホーリー・マザーの生涯は、まさにカルマ・ヨーガの実践の生きた手本です。

『ホーリー・マザーの生涯』を見ると、マザーは、厄介な人、付き合いにくい人、かっとなりやすく感情的な人、落ち着きのない人などに囲まれていました。私たちは、周りの人が静かだと自分も穏やかでいられますが、ホーリー・マザーの場合はそうではありませんでした。周囲に騒々しい人がいたのですが、マザーは常に穏やかさと心の平安を保っていました。それだけでなく、体と心と霊性の面で他の人のお世話をし続けたのです。今、イニシエーションを授けたかと思うと、次の瞬間には、イニシエーションを授けた人たちのために料理をしていました。

ある意味では、シュリー・ラーマクリシュナとスワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）は出家の人にとっての理想であり、家住者にとっての理想の手本はホーリー・マザーだと言えるでしょう。生活において仕事は絶対に必要ですが、ストレスの原因にもなります。現代では、生活のテンポが速く競争も激しいので、ストレスは増大しています。かつては生活のペースがゆっくりでした。朝、電車に乗ろうとして走っている人をよく見かけますね。「駆け込み乗車はせずに次の電車をお待ちください」とホームに書いてありますし、実際、数分で次の電車が到着しますが、皆「これは私の電車だ」と言わんばかりに停車に駆け込みますね。

スワーミー・サーラダーナンダジーがホーリー・マザーについて興味深いコメントしています。「マザーの周囲は、様々な理由から常に騒々しい雰囲気であったが、マザーは忍耐強く穏やかで静かで、『活動の中の無活動』の最高の手本であった」

若い僧侶たちの中には、時折問題を起こす者や、仕事のやり方が他の者と合わない者もいました。サーラダーナンダジーは、そうした僧侶を自分の近くに置いて状況が改善するよう取り計らいました。サーラダーナンダジーは霊的レベルが非常に高かったのですが、自分を見習えとは言わず、常に「マザーを見なさい」と言って諭しました。狭く騒々しい環境の中でたくさんの仕事をしていたにもかかわらず、マザーは忍耐強く穏やかで静かでした。まさに「無活動の中に活動を見、活動の中に無活動を見る」の素晴らしい手本でした。

## エゴを抑える

私たちはエゴ（自我）が強いと穏やかさや平安を得ることはできません。強いエゴは怒りや嫉妬などの否定的な感情の原因となり、良い人間関係や職場の雰囲気を損ねます。エゴを抑えるには二通りの方法があります。一つは「私は神様の道具である」と考えることです。だれもが神様なのですから、神様の道具として神様のお世話をするのです。困難は神様からやってきますが、才能や力も神様から授けられると考えてください。心底このように考えることで、うぬぼれの気持ちは小さくなりやがて消えます。マザーの生涯ではこの考え方が実践されていますね。

先ほど、ホーリー・マザーの愛は無限だが普通の人の愛は限定的だという話がありました。普通の人は「夫や妻、家族などを愛しているけれども、他の人まではとても愛せない」と考えています。愛を上限まで使い果たしているので、ほかの人を愛したら家族への愛が減ってしまうかのようです。これは、私たちの愛は執着に近いので、愛の対象が限定的で愛の量にも上限があるからです。しかし、純粋な愛には境界がありません。純粋な愛の源は神であり無限ですから、その対象もその量も無限です。

## 神様の道具になる

『バガヴァッド・ギーター』には、「すべての者の中に私を見、私の中にすべての者を見る者は、最も偉大な人である」と書いてあります。言い換えると、自身の中に神さまを見て、その同じ神様を他者の中に見るということです。そうすることでエゴは小さくなります。誰にでもエゴがありますがそれぞれエゴは異なります。このエゴは、自分を「肉体と心の複合体」だと考えていることから生じます。「私は神様の道具だ、神様のお世話をするのだ」と考えればエゴを小さくすることができます。これを実践するには、イシュタ（自分の選んだ神）がすべての人の中にいると考えてください。例えば、シュリー・ラーマクリシュナの信者なら、すべての人の中にラーマクリシュナがいて、そのラーマクリシュナをできる限りお世話する、と考えるのです。

エゴを抑えるもう一つの方法は少し難しいやり方で、ギャーナ・ヨーガに基づいて「私は純粋意識である」と考えます。私が肉体でも心でもないのであれば、この仕事をやっているのは誰なのか、こう考えることでエゴのない状態と同じ結果を得ることになります。活動の中に無活動を見、無活動の中に活動を見る。しかし、この考え方は実践が少し難しいでしょう。大半の人には、「私は神様（＝純粋意識）である」と考えるよりも「私は神様の道具である」と考えた方が簡単です。ホーリー・マザーは生涯を通じて、神様の道具として休むことなく神様のお世話を続けたのです。